

今後も共有していただけるとありがたいです。

委員 生活面・就業面ともに、デジタルツール活用で対応できる部分はあると思います。語学堪能な主婦や

教諭免許、保育士免許を持つ人が在宅でオンラインの副業をしているケースもありますし、私個人も副業で講師をしています。離職や雇用調整された人などに対する就業支援策および男女共同参画推進としての視点にも対応する施策になり得ると考えます。

委員 デジタルは距離と時間を超えて、コミュニケーションを図りやすくなりますよね。

委員 コロナ禍で職を失ったという住民の声はありませんか？

議員 女性の方が、非正規

雇用者が多く、コロナ禍の生活や収入の変化で転職されている人が多いと感じています。

議員 離職者や転職者、非

正規雇用者の割合が男性より目立つのは、女性が家庭内で育児や介護などの主な引き受け手であるためではないでしょうか。臨時休校の際、保護者は仕事を休まなくてはなりません。それでも女性の割合が多いのではないかと考えています。

市議が家庭と仕事のバランスを取るために工夫をしていること

議員 就業規則はありま

せんが、職務や勤務時間を自分で判断・決定し、市議としての責任を果たしています。私の場合は、地域活動の延長上に議員活動があり、男女共同参画の意識を

醸成するベースは家庭、その裾野を広げていくのは地域社会であると実感しています。これまでのネットワークを活かしながら、地域コミュニティの輪を広げる活動をしていくつもりです。



【男女共同参画推進委員会】

市では、市民と行政が共に男女共同参画を推進していくため、市民や学校、企業、各種団体の代表者などから構成される「名取市男女共同参画推進委員会」を設置しています。

議員 議員になったことで

ハードワークになったとは思っていません。家庭での時間も取れています。コロナ禍では仕事で人を訪ねることが減り、自分自身も家庭や家族との関わり方に変化を感じています。

委員 コロナ禍のピンチを

チャンスに変えて、男性が家庭に参画する機会となるのではないのでしょうか。

委員 ワーク・ライフ・バ

ランスとは、仕事と私生活がリンクして良い方向へ循環するためのバランスを取っていくものと考えています。例えば、男性の育児休業取得を推進する社会の流れの中、若い世代が子育てへ参画していくとき、会社の上司や制度、職場の環境や雰囲気の中に存在するジェネレーションギャップなどを変えていくため、「夫婦ともに

家庭に参画する」あり方への時代の変化を理解してもらえぬ取り組みが良いと思います。

議員 時代の変化を感じ、

どれくらい若い世代と対話を重ねていくか。社会も時代もですが、家庭内のバランスも変化してきています。これからの男女共同参画について、時代や家庭の変化に対応しながら認知度を上げていく責任が我々にもありますね。

「ジェンダー平等」実現のため「アンコンシヤス・バイアス」(無意識の偏見)への対処方法

議員 私は『多様性の尊重』

『機会の平等』という2つのキーワードを元に対応したいと考えています。多様性の尊重では、家庭や地域、職場などの各場面で、性別で

判断・制限をせず、意識的にお互いを尊重する姿勢を持つこと。機会の平等では、地域や団体の方針を決定する場にさまざまな視点からの意見を反映する機会を増やし、それを阻害する文化的、社会的な慣習があれば、取り除けるか検討すること。多様性を大切にすると社会を指し、個別に寄り添うべく努めていきたいです。

議員 ジェンダー平等に関しては、不平等さにも注目したいものです。以前、婦人防火クラブの炊き出し訓練で、「炊き出しは誰でもできる。男性も含めて研修すればいい」と言われ、女性が参加する前提で考えていた自分の偏見に気づきました。偏見は自身の生い立ちや経験からできている部分が大いかにありますが、まず自身のアンコンシャス・バイアスに気づくことが大切

です。平等・不平等の例を挙げて研修するなど、きっかけづくりをしていければ良いですね。性別に対して、より個人を尊重した対応が社会的に広がってきていると思います。

委員 ジェンダーは、少数派の意見でも積み上げると膨大な意見が集まるのではないかと考えています。地域の状況を洗い出して、どう変えていけるか検討することで男女共同参画の推進力を持たせることができるのではないのでしょうか。

も炊き出しも、男女関係なくやっているところが多いのに。女性前提の声掛けて、参加者全員が女性という場では、男性も手を挙げづらいものです。最近、赤ちゃんを抱っこして散歩する父親たちの姿を見かけるようになってきましたし、男性の家庭参画は進んできています。文化や伝統といった部分からではなく、身近な場面から男女共に活動しやすい雰囲気づくりを行っていくことが重要です。

委員 男女の役割については、一方的に男性がやり玉にあがることも多くありますが、女性側の意識改革も大切です。お茶出しについても「私は簡単なことしかできない」「むしろ気楽」と考える女性もいたかもしれない。女性に対し、意見をもち、責任を負って社会に出る意識を持たせる働きかけが必要です。

委員 私は海外で暮らしていましたがお茶出しや炊き出しが女性の仕事であるという日本の慣習に驚きました。東日本大震災の避難所生活でも「おにぎり作りするから、奥さんは協力して！」という声掛けに違和感を覚えませんでした。他国ではお茶出し

1-特-66表 1日の時間の使い方

夫婦と子供から成る世帯(有業者)(仕事のある1日)	令和2(2020)年度調査	令和元(2019)年度調査	時間の増減	
仕事時間	女性	6時間42分	7時間18分	-36分
	男性	9時間09分	9時間34分	-25分
家事時間	女性	2時間29分	2時間31分	-2分
	男性	0時間50分	0時間49分	+1分
育児時間	女性	2時間13分	1時間43分	+30分
	男性	0時間55分	0時間31分	+24分
介護時間	女性	0時間49分	1時間02分	-13分
	男性	0時間41分	1時間06分	-25分

(備考)「令和2年度 男女共同参画の視点からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する調査報告書」(令和2年度内閣府委託調査)より作成。

1日の時間の使い方について、コロナ前と比較すると、男性の仕事時間が減少した分、育児時間が増加し、男性の育児参画が進んだように見える。ただし、女性の育児時間も同様に増加しており、また家事時間については変化が無いことから、女性が男性の2倍以上、家事・育児をしている傾向は、コロナ前後で変わらない。

議員が考える男女共同参画推進の具体的な施策

議員 かつて海外で仕事をしていたのですが、国によって、当たり前の光景は異なります。国の違いと同様に、名取市でも「男女共同参画」への理解度や認識に差があります。地域差や世代差を考えた時、海外や都市部の先進的な取組を名取市で急実践することは困難です。名取市に合った考え方や方法を徐々に考えていきたいです。

委員 海外の話が出ましたが、日本も多様な性を持つ方々が周囲に気兼ねなく生活できるように思いますか？文化や結婚制度など、根深い問題がたくさんありますね。

議員 文化や宗教観も関わる問題なので、海外の

議員

考え方や方法をそのまま日本に持ち込むことは難しいし、対話して方針を練り上げていくしかないと思います。

委員

経済面の問題でもあります。中国では昨今世帯の収入が増加しており、日本とは逆に、共働きから専業主婦になる女性が増えています。働いても十分な収入を得られない状況があるなら、女性も働きやすい環境を整えていかないといいません。

議員

国ごとの経済的な発展が男女共同参画の背景に影響していることは間違いありません。

議員

『今後、女性議員をいかに増やしていくか』という話題にもつながりますが、こちらから積極的に多様な意見を聴く場を設けていくことが大事だと考えてい

ます。名取市議会でも、せめて3割の女性議員がいると、女性目線の意見を政策により反映していけると思っています。なぜ女性が議員として手を挙げづらいかの原因を考える際、「女性は政治に口出しすべきじゃない」という昔の固定観念からなのか、就労や収入の面の問題からなのか、ソフト面のハードルを考慮し、必要な対応を考えていかねばなりません。なにより、『普段、市議会議員がどんな活動をしているかがわからない』というのがひとつの課題です。

委員

東日本大震災時、女性は避難所で炊き出しに駆り出されたり、育児、授乳、着替えなどのスペースを

議員

確保しにくかったり、大変だったという声が多くありました。女性の視点を各施策に取り入れることについて、速やかに現場の声を反映してほしいと思っています。

議員

コロナ禍での避難訓練でテントを活用するケースが増えました。乳幼児と一緒にのりや女性への配慮も含め、プライバシーを守る形で避難所設営が可能になってきましたが、より多様な人へ配慮した避難所づくりについて、折を見て提案していくつもりです。

議員

社会的な検討課題が多い中、市議会の具体的な取組として、市議会会議規則の改正を行いました。議員が会議や委員会を欠席する際の届出の理由を、『育児、看護、介護、配偶者の出産補助』などと具体的に明記し、出産のために本人

委員

が欠席する期間を標準市議会会議規則より長い、『産前産後8週間以内』とする旨を明記しました。これらの理由で欠席した議員はま

議員

だいませんが、今後、女性議員や育児や介護などをしながら活動する議員が増えていくことを想定しつつ、市議会としても具体的な対応を議論していきたいと考えています。

委員

男女共同参画社会の推進は、文化や伝統、旧来の慣習など地域の状況を含めて検討していくことも必要であり、時間がかかる課題だと思えます。この意見交換は、平成22年以来、久しぶりの開催でしたが、その間も男女の格差の是正、性的マイノリティの社会的認知度の向上など、変革が進んでいます。コロナ禍で表面化した男女共同参画に係る諸問題に対し、それ

ぞれの立場で解決に向けた行動や心がけを行うことが、本日のテーマ『いま』を生きるみんなで築いていく男女共同参画社会とは?』に繋がるのかもしれない。

記事作成

名取市男女共同参画推進委員会

問い合わせ先

事務局 市民協働課
724-17146



P6~9の記事についてのアンケートです。ぜひご意見をお寄せください。
回答期間 3月1日~4月30日



この情報誌は、平成16年から発行されています。バックナンバーはこちら！